

【漁況】

【マアジ】

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のマアジの漁獲量は、昭和40年の53万トンにピークに減少傾向となり、昭和55年には5万4千トンとなりました。その後増加傾向に転じ、平成8年には33万トンまで増加し、30万トン台を維持しながら、平成9年は32万3千トン、平成10年は31万1千トンでした。しかし、平成11年には大きく減少し21万1千トンとなり、平成13年は21万2千トンでした。

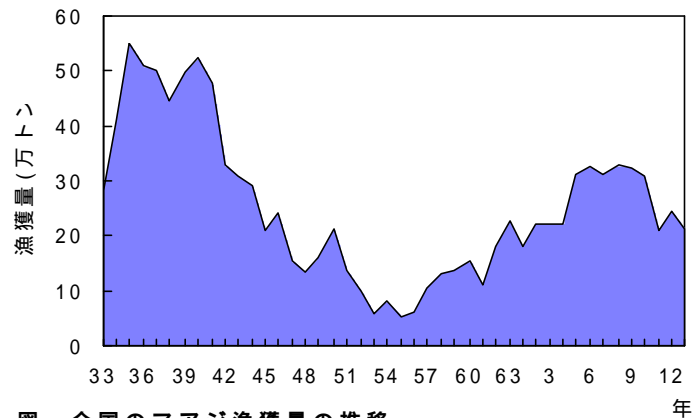


図 全国のマアジ漁獲量の推移

2. 平成14年10～12月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、甌周辺(10月)、長島沖～野間池沖(10～12月)に、薩南海域では、内之浦沖(10～11月)、佐多沖(12月)に漁場が形成されました。

4港計では、アジ仔・豆アジ(平成14年生まれ)主体に1,156トンの水揚げで、前年の245%及び平年の68%でした。

3. 平成15年1～3月期の見とおし

漁獲の主体は、豆アジ(1歳魚；平成14年生まれ)で、来遊量は前年を上回り、平年並みでしょう。

(根 拠)

主漁獲対象となる平成14年生まれ群の来遊量は、平成13年生まれ群を上回ると考えられます。

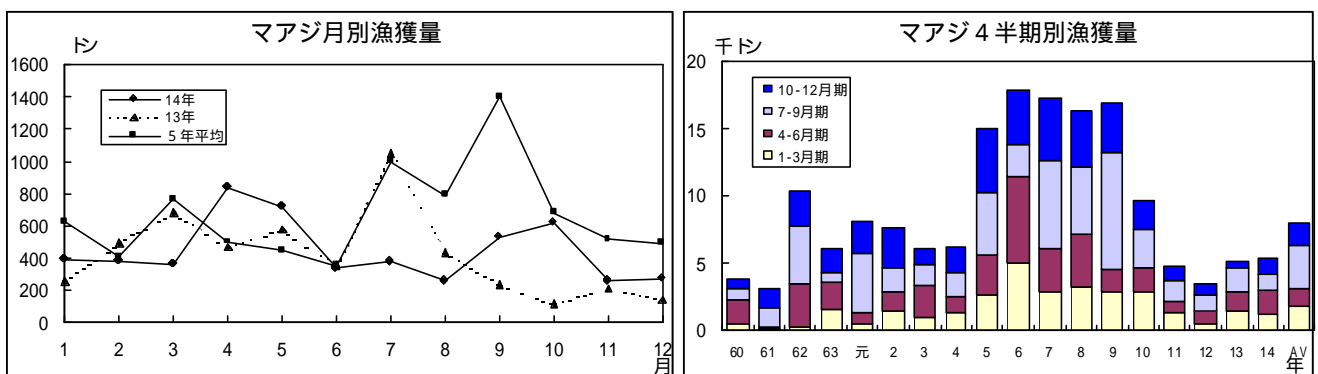


図 マアジ漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年（平成9～13年）の平均値，平成14年12月25日までの水揚量を使用。

[サバ類]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

サバ類の漁獲量は、昭和53年の160万トンにピークにマサバ資源水準の低下により年々減少し、昭和57年には72万トンとなりました。その後は、ゴマサバの増加により大幅な漁獲量の減少は見られませんでした。昭和63年以降はゴマサバの資源水準も低下したため、サバ類の漁獲量は大きく減少し、平成3年には26万トンとなりました。その後、増加傾向に転じ平成9年は84万9千トンとなりましたが、再び減少傾向となり平成13年は37万1千トンでした。

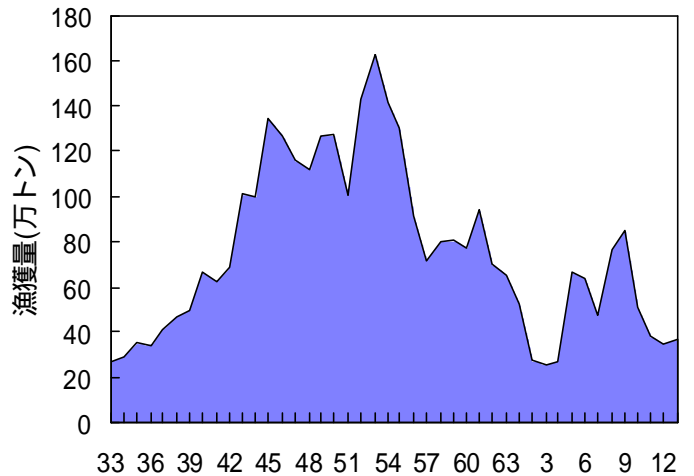


図 全国のサバ類漁獲量の推移 年

2. 平成14年10～12月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

薩南海域では、豆・小サバ（平成14年生まれ）主体に内之浦沖（10月）に漁場が形成されました。北薩海域では、豆・小サバ（平成14年生まれ）主体に甕周辺（10～11月）、阿久根沖（10～11月）に漁場が形成されました。

4港計では、374トンで、前年の31%及び平年の16%と低調に推移しました。

3. 平成15年1～3月期の見とおし

漁獲の主体は中～大サバ（3歳魚；平成12年生まれ）及び小サバ（1歳魚；平成14年生まれ）で、来遊量は前年・平年を下回るでしょう。

（根 拠）

前期の漁況の経過及び現況から漁獲の主対象となる平成12年生まれ群は低水準と考えられます。

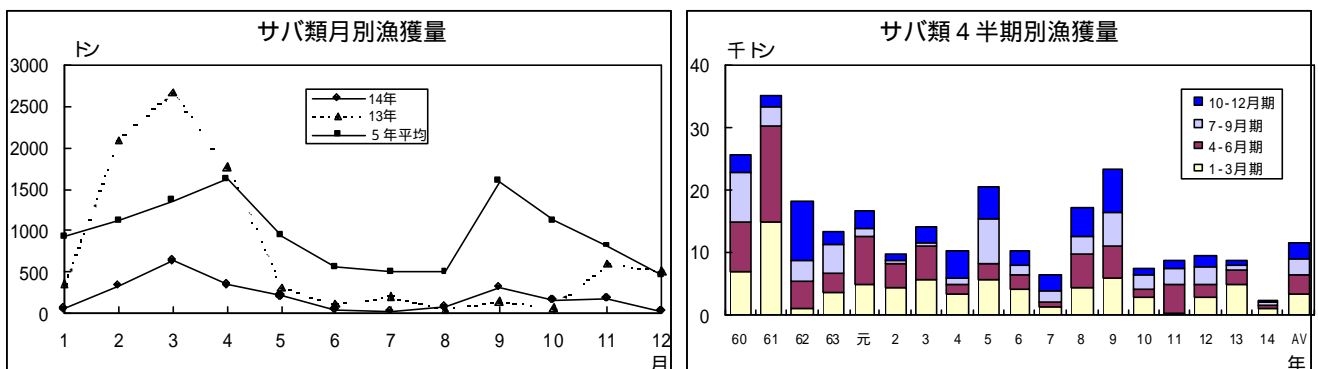


図 サバ類漁獲量変化（4港計）

平年値は過去5年（平成9～13年）の平均値，平成14年12月25日までの水揚量を使用。

[マイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のマイワシの漁獲量は、昭和30年代から40年代にかけての不漁期の後、昭和48年頃から増加の傾向が見られ、昭和63年には449万トンまで増加しました。しかし、平成元年から三陸沖を中心に漁獲量が減少し始め、その後もマイワシの若齢魚の減少等により、全国的に漁獲量は減少を続け、平成7年には66万トンとなり、平成10年は16万7千トンとなりました。平成11年は35万1千トン、平成13年は17万9千トンでした。

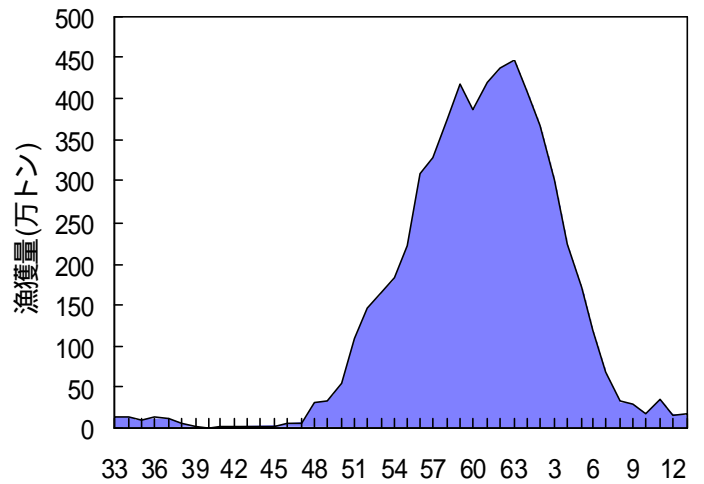


図 全国のマイワシ漁獲量の推移 年

2. 平成14年10～12月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

期間中にまとまった漁獲はありませんでした。

4港計では、0.1トンの水揚げで前年の20%でした。

3. 平成15年1～3月期の見とおし

漁獲の主体は中羽イワシ(1歳魚；平成14年生まれ)で、来遊量は低調であった前年並でまとまった来遊はみられないでしょう。

(根拠)

マイワシの資源状態は全国的に低水準にあり、当歳魚の加入も低水準であることや前期の漁獲状況から低調に推移すると考えられます。

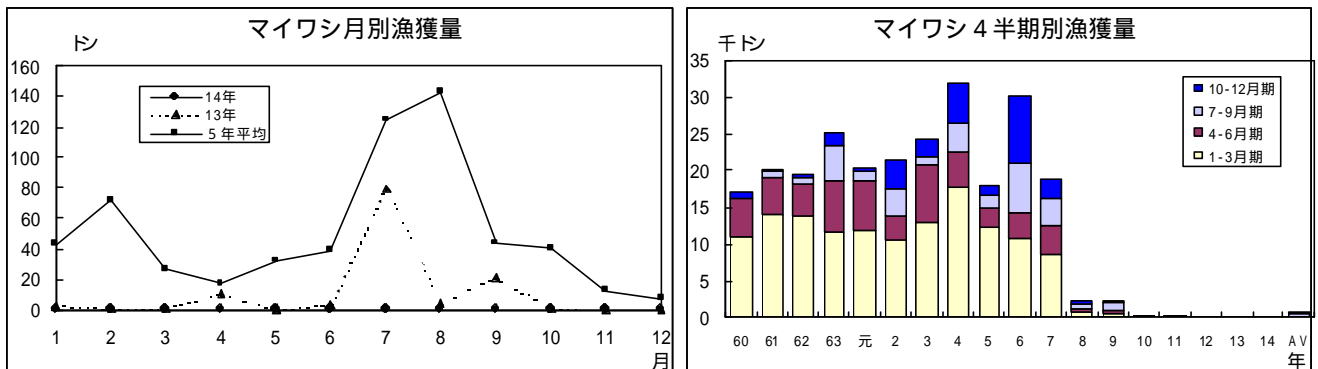


図 マイワシ漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年（平成9～13年）の平均値，平成14年12月25日までの水揚量を使用。

[ウルメイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のウルメイワシの漁獲量は、昭和30年代後半から40年代前半にかけて3万トン前後で推移していましたが、昭和46年から54年まで5万トン前後で推移しました。昭和55年以降、漁獲量は減少し昭和60年には3万トンとなりましたが、その後増減を繰り返しながら、増加傾向を示し、平成6年に6万8千トンとなりました。その後減少傾向に転じ、平成9年は5万5千トン、平成11年は2万9千トン、平成13年は3万1千トンでした。

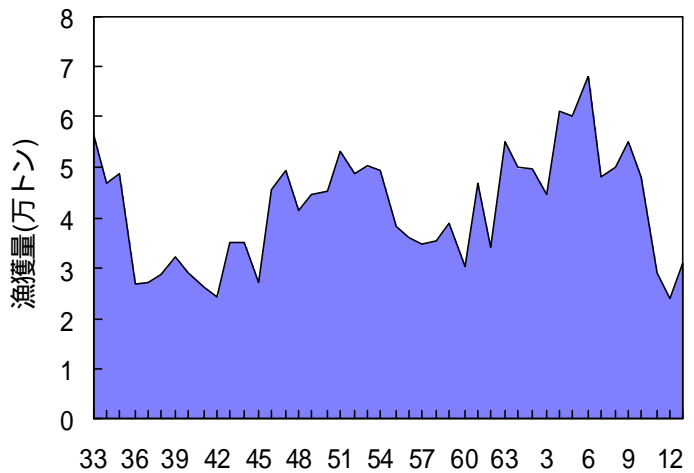


図 全国のウルメイワシ漁獲量の推移

2. 平成14年10～12月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

薩南海域では、野間池・宇治(10月)、佐多岬沖(10～11月)で漁場が形成されました。4港計では、643トンの水揚げで、前年の110%及び平年の47%でした。

3. 平成15年1～3月期の見とおし

漁獲の主体は中～大羽ウルメ(1歳魚；平成14年生まれ)で、来遊量は前年・平年を上回るでしょう。

(根 拠)

前期の棒受網漁業やまき網の漁況の経過から主漁獲対象となる平成14年生まれ群は、高水準と考えられます。

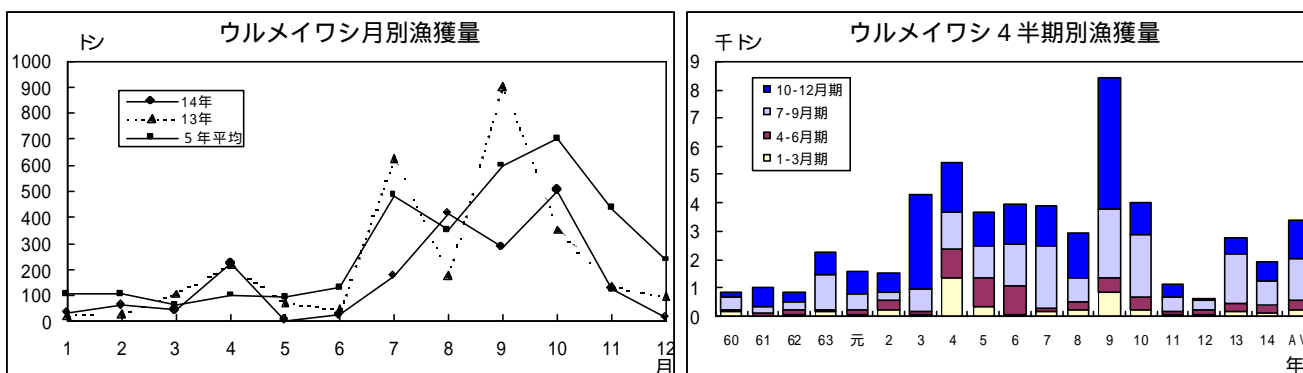


図 ウルメイワシ漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年（平成9～13年）の平均値，平成14年12月25日までの水揚量を使用。

[カタクチイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

カタクチイワシの漁獲量は、昭和48年まで30万トン台で変動していましたが、昭和49年以降減少傾向となり昭和54年には13万トンとなりました。その後、徐々に漁獲量は増加し昭和59年には22万トンとなりましたが、昭和62年には再び14万トンまで減少しました。昭和63年以降は大きく増減を繰り返し平成9年は23万3千トン、平成10年は47万トン、平成11年は過去最高の48万トンとなりました。平成13年は30万1千トンでした。

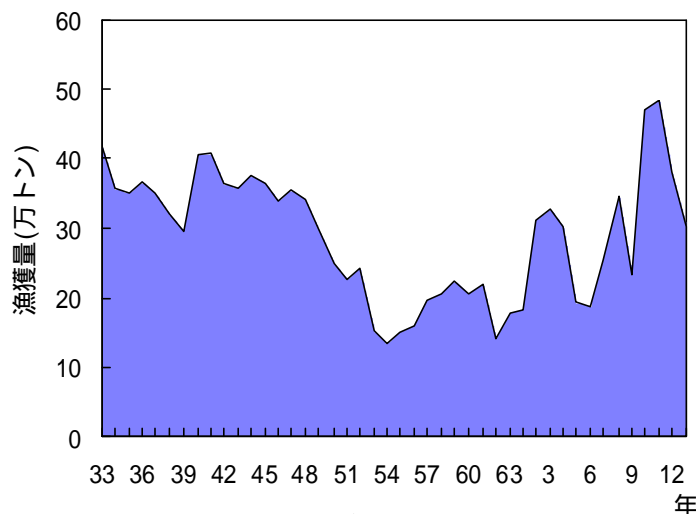


図 全国のカタクチイワシ漁獲量の推移

2. 平成14年10～12月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

期間中にまとまった漁獲はありませんでした。

4港計では、0.0トンの水揚げで前年・平年の0%でした。

3. 平成15年1～3月期の見とおし

漁獲の主体は中羽カタクチで、来遊量は前年を上回り、平年を下回るでしょう。

（根 拠）

主対象となる平成14年生まれ群は、低調であった前年を上回るものと考えます。

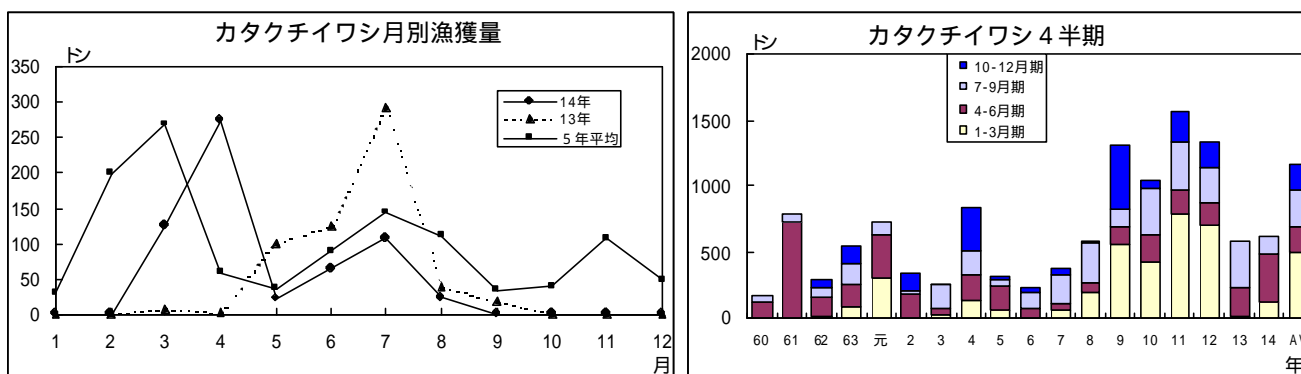


図 カタクチイワシ漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年（平成9～13年）の平均値，平成14年12月25日までの水揚量を使用。

[その他の魚種]

ムロアジ類 (4 港計)

1. 経年変化及び平成14年10～12月期の漁況の経過

ムロアジ類の漁獲量は、平成2年の21,700トンピークに減少傾向を示し、平成12年は、昭和58年以降最低の1,819トンとなりました。平成13年は、やや増加し3,224トンとなりました。

今期は主に薩南海域(10月～12月)、北薩海域(11～12月)で漁獲があり、期全体では2,872トンの水揚げで前年の158%及び平年の188%でした。

2. 平成15年1～3月期の見とおし

来遊量は前年・平年を上回るでしょう。

オアカムロ (4 港計)

1. 経年変化及び平成14年10～12月期の漁況の経過

オアカムロの漁獲量は、平成元年の5,300トンピークに減少し、平成6年には1,823トンとなりましたが、その後は増加傾向となり、平成13年は2,337トンとなりました。

今期は主に薩南海域で漁獲があり、期全体では510トンの水揚げで前年の89%及び平年の70%でした。

2. 平成15年1～3期の見とおし

来遊量は前年を上回り、平年を下回るでしょう。

マルアジ (アオアジ) (4 港計)

1. 経年変化及び平成14年10～12月期の漁況の経過

マルアジの漁獲量は、平成2年以降低調に推移しました。平成7年には1,430トンに増加しましたが、再び減少し平成11年は639トンでした。平成12年は、12年生まれ群の加入が順調で、1,867トンに増加し、平成13年は1,603トンでした。

今期は主に北薩海域で漁獲があり、期全体では796トンの水揚げで前年の143%及び平年の129%でした。

2. 平成15年1～3月期の見とおし

来遊量は前年を下回り、平年を上回るでしょう。

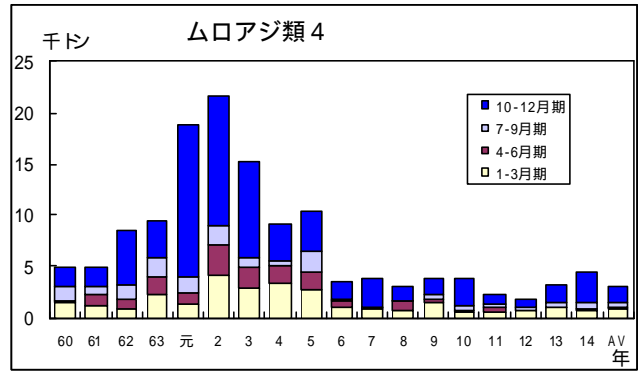
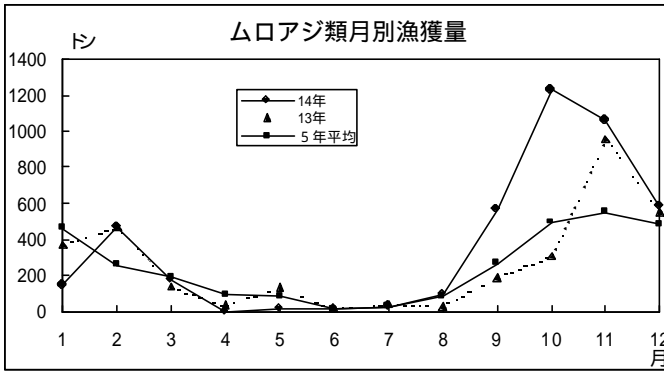


図 ムロアジ類漁獲量変化(4港計)

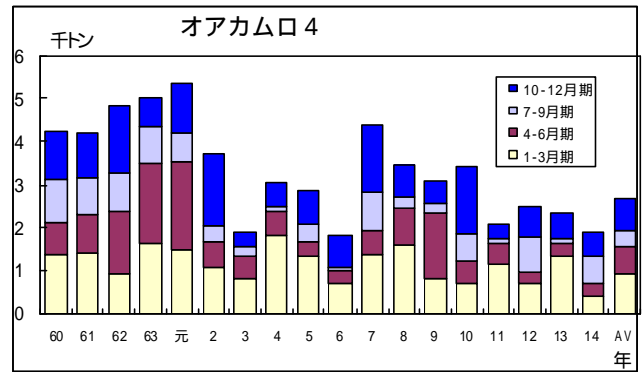
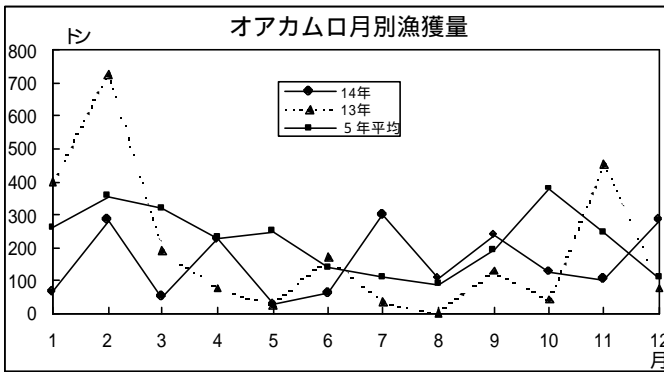


図 オアカムロ漁獲量変化(4港計)

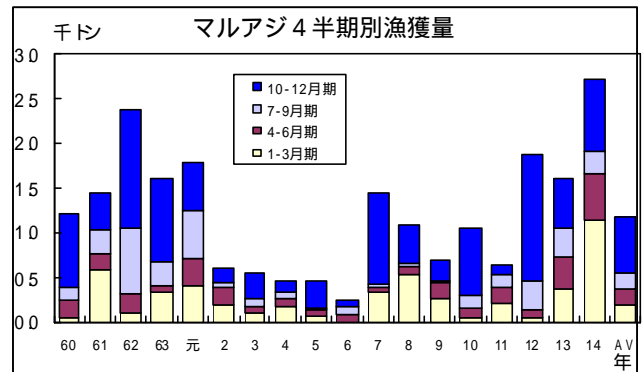
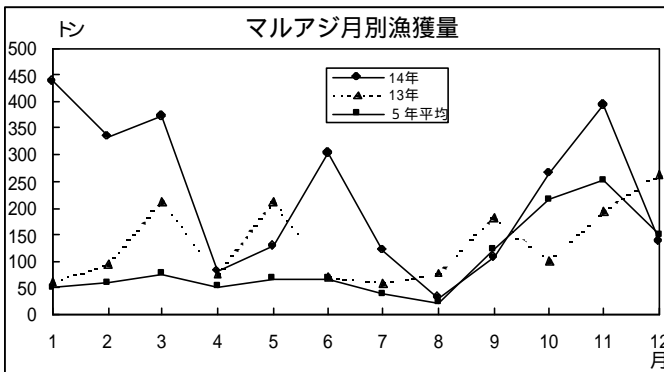


図 マルアジ(アオアジ)漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年(平成9~13年)の平均値,平成14年12月25日までの水揚量を使用。